2022年10月入学　横浜国立大学大学院
都市イノベーション学府博士課程前期[夏期]学生募集要項

都市イノベーション学府では、建築学、土木工学、人文・社会科学、国際社会や文化・芸術などに関わる分野の双方で、実務に長けた高度専門家の育成を行う。そのために、複数の分野を横断的に学ぶこともできる多面的な研究環境を提供していく。そして最終的には、都市のイノベーションというテーマに対して多様なアプローチを実行する能力を持ち、グローバルに通用する次世代リーダーの養成を目指す。

【重要】この募集要項は2022年10月入学を希望される方向けの募集要項です。2023年4月入学を希望される方は2023年4月入学向けの募集要項を参照してください。
なお、新型コロナウイルス感染症に関連し、今後の状況の変化によっては、募集要項公表後に試験の実施方法を変更する可能性があります。最新情報については、学府・研究院ウェブサイト「学生募集情報」ページを随時参照するようにしてください。

１．募集人員

（１）　一般入試

コース別試験内容については、p.12以降のコース説明を参照すること。出願は書式1-1および1-2を使用すること。

専攻	コース	2022年10月募集人員	コース説明
建築都市文化専攻	建築都市文化コース	若干名	ページ12
	建築都市デザインコース（Y-GSA）	―	―
	横浜都市文化コース（Y-GSC）	―	―
都市地域社会専攻	都市地域社会コース	若干名	ページ13
	国際基盤学コース（IGSI）	若干名	ページ14

（２）　私費外国人留学生特別入試

コース別試験内容については、p.12以降のコース説明を参照すること。出願は書式2-1および2-2を使用すること。

専攻	コース	2022年10月募集人員	コース説明
建築都市文化専攻	建築都市文化コース（建築系問題）	若干名	ページ12
	建築都市デザインコース（Y-GSA）	―	―
都市地域社会専攻	都市地域社会コース（都市基盤系問題）	若干名	ページ13
	国際基盤学コース（IGSI）	若干名	ページ14

[注]都市地域社会コース「地域社会系問題」志願者については、一般入試で出願すること。

２．出願資格

次のいずれかに該当する者

（１）学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び2022年9月30日までに卒業見込みの者

（２）学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者及び 2022 年 9 月 30 日までに学士の学位を取得見込みの者［注 1］
（３）外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者及び 2022 年 9 月 30 日までに修了見込みの者
（４）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び 2022 年 9 月 30 日までに修了見込の者
（５）我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び 2022 年 9 月 30 日までに修了見込みの者
（５）の２　外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
（６）専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
（７）文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年 2 月 7 日文部省告示第 5 号）
（８）2022 年 9 月 30 日までに大学に 3 年以上在学した者であって、大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
（９）外国において学校教育における 15 年の課程を修了した者及び 2022 年 9 月 30 日までに修了の見込みのある者であって、大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
(10) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了した者及び 2022 年 9 月 30 日までに修了の見込みのある者であって、大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
(11)　我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び 2022 年 9 月 30 日までに修了の見込みのある者であって、大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
(12) 個別の審査により、大学を卒業したと同等以上の学力があると本学府が認めた者で、2022 年 9 月 30 日までに 22 歳に達するもの［注 2、3］

［注1］　出願資格（２）における 2022 年 9 月 30 日までに学士の学位を取得見込みの者とは主に、学位規則第６条第１項の規定に基づき大学改革支援・学位授与機構が定めている要件を満たすものと認定した短期大学および高等専門学校に置かれた専攻科を修了見込みの者で、2022 年 4 月までに大学改革支援・学位授与機構に学位の授与を申請した者とする。

［注 2］　出願資格（12）に該当するものとは、上記（１）～（11）に該当しない者で、本大学院の個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等の学力があると認めた者で、2022 年 9 月 30 日までに 22 歳に達する者とする。
（主に該当する者：短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者など大学卒業資格を有していない者、または大学卒業までに 16 年を要しない国の大学を卒業した者で、大学教育修了後、日本国内または外国の大学、国立大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において、研究生、研究員等として 1 年以上研究に従事した者及び 2022 年 9 月までに 1 年以上研究に従事する見込みの者）

［注 3］出願資格（５）の２および（８）～（12）により出願しようとする場合は、あらかじめ志望先の教員と相談のうえ、2022 年 5 月 9 日（月）から 5 月 11 日（水）17 時まで【期間内必着】に下記の書類（①～⑦）を都市系支援課都市イノベーション学府係まで郵送で提出し、出願資格の認定を受けること。メールでの受付は一切行わない。審査の結果は 2022 年 5 月 25 日（水）発送の郵便で本人宛に通知する。出願資格を有すると認められた者は、p.7「4.出願方法」で定められた期間内に所定の出願手続きを行うこと。（一度提出した書類は、出願手続きの際には必要としない。）

①　出願資格認定申請書（書式 3）
②　出願資格認定用経歴調書（書式 4）
③　最終学歴の卒業（見込み）証明書又は在学期間(見込み)証明書
④　最終学歴の成績証明書
⑤　研究業績調書（書式 5）
⑥　研究計画書（書式 6）
⑦　354 円分の切手（速達料を含む）を貼付した住所及び氏名明記の返信用封筒（長３）

※出願資格認定申請に必要な本学府所定の様式は、都市イノベーション学府・研究院ウェブサイト「学生募集情報」ページからダウンロードして作成すること。様式の印刷は、全て「A4 サイズ・白色用紙」に「片面印刷」とする。書類を書き損じた場合は、誤った箇所に二重線を引き、余白に正しい内容を記載すること。

３．選抜方法

一般入試、私費外国人留学生特別入試では、「筆記試験選抜」によって入学者選抜を行う。「筆記試験選抜」は出願書類の審査及び外国語試験[注]、専門科目試験、口述試験等により行う。検査科目についての詳細は、p.12 以降のコース説明を参照すること。

[注]外国語試験

外国語の試験は、（１）英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜）とする。ただし、都市地域社会専攻都市地域社会コースの「地域社会系問題」を志望する者については、研究希望内容により英語に代えて、（２）のとおり、他の外国語を受験科目とすることができる。

（１）英語（TOEIC、TOEFL、IELTS スコア）

◆建築都市文化コース、都市地域社会コース（地域社会系問題）志願者

対象となる試験	提出するスコア証明書
TOEIC	Official Score Certificate（公式認定証）
TOEFL（iBT）	Test Taker Score Report
TOEFL（iBT）Home Edition 及び Paper Edition	Test Taker Score Report
IELTS	Test Report Form（公式の成績証明書）

① 上記いずれかの試験のスコア証明書（原本のみ、顔写真付き、コピー不可）を出願時もしくは試験監督者等の求めに応じて学科試験当日の学科試験Ⅰ・学科試験開始前に提出すること。証明書の受験日は試験当日から起算して２年以内のものであること。条件を満たしたスコアの提出がない場合、**失格とする。**提出されたスコア証明書は面接時に返却する。

② ②TOEIC-IP 及び TOEFL-ITP などの団体受験制度、TOEIC Bridge、TOEIC S&W のスコア証明書は認めない。

③ 換算方法は以下のとおりとする。小数点以下の得点は四捨五入とする。

TOEIC のスコア

以下の方法で 100 点満点に換算し、外国語（英語）の点数とする。

349 点以下：		0 点
350～500 点：	(TOEIC-350) /3	0～ 50 点
500～800 点：	(TOEIC-500) /6+50	50～100 点
801 点以上：		100 点

TOEFL のスコア

TOEFL-iBT 及び TOEFL（iBT）(Home Edition 及び Paper Edition を含む)のスコアは、以下の得点換算表を用いて 100 点満点に換算し外国語の点数とする。

TOEFL -iBT	外国語	TOEFL -iBT	外国語	TOEFL -iBT	外国語	TOEFL -iBT	外国語	TOEFL -iBT	外国語
90～120	100	76	85	64	69	53	53	43	24
88～89	99	74～75	82	62～63	66	52	52	41～42	21
86～87	97	72～73	80	61	64	51	47	40	15
84～85	95	71	79	59～60	63	49～50	43	39	12
83	93	69～70	75	58	61	48	40	38	9
81～82	90	68	74	57	60	47	38	36～37	2
79～80	88	66～67	73	56	56	45～46	34	0～35	0
77～78	87	65	71	54～55	55	44	28		

・小数点以下の得点は四捨五入とする。
・Test Taker Score Report に記載される MyBest scores は夏期募集では活用しない。

IELTS のスコア

以下の方法で 100 点満点に換算し、外国語（英語）の点数とする。

7 点以上の場合 ：		100 点
4 点以上 7 点以下の場合 ：	(IELTS−1) ×50/3	点
3 点以上 4 点以下の場合 ：	(IELTS−3) ×50	点
3 点以下の場合 ：		0 点

◆都市地域社会コース（都市基盤系問題）、国際基盤学コース（IGSI）志願者

対象となる試験	提出するスコア証明書
TOEIC	Official Score Certificate（公式認定証）
TOEFL（iBT）	Test Taker Score Report
TOEFL（iBT）Home Edition 及び Paper Edition	Test Taker Score Report
IELTS	Test Report Form（公式の成績証明書）

① 上記いずれかの試験のスコア証明書（原本のみ、顔写真付き、コピー不可）を出願時もしくは試験監督者等の求めに応じて学科試験当日の学科試験Ⅰ・学科試験開始前に提出すること。証明書の受験日は学科試験当日から起算して２年以内のものであること。条件を満たしたスコアの提出がない場合、**失格とする。**提出されたスコア証明書は面接時に返却する。

② TOEIC-IP 及び TOEFL-ITP などの団体受験制度、TOEIC Bridge、TOEIC S&W のスコア証明書は認めない。

③ 換算方法は以下のとおりとする。小数点以下の得点は四捨五入とする。

TOEIC のスコア

以下の方法で 50 点満点に換算し、外国語（英語）の点数とする。

349 点以下： 0 点
350～500 点：[（TOEIC-350）/3]/2 0～ 25 点
500～800 点：[（TOEIC-500）/6+50]/2 25～50 点
801 点以上： 50 点

TOEFL のスコア

TOEFL-iBT 及び TOEFL（iBT）(Home Edition 及び Paper Edition を含む)のスコアは、以下の得点換算表を用いて 50 点満点に換算し外国語の点数とする。

TOEFL-iBT	外国語	TOEFL-iBT	外国語	TOEFL-iBT	外国語	TOEFL-iBT	外国語	TOEFL-iBT	外国語
90～120	50	76	43	64	35	53	27	43	12
88～89	50	74～75	41	62～63	33	52	26	41～42	11
86～87	49	72～73	40	61	32	51	24	40	8
84～85	48	71	40	59～60	32	49～50	22	39	6
83	47	69～70	38	58	31	48	20	38	5
81～82	45	68	37	57	30	47	19	36～37	1
79～80	44	66～67	37	56	28	45～46	17	0～35	0
77～78	44	65	36	54～55	28	44	14		

IELTS のスコア

以下の方法で 50 点満点に換算し、外国語（英語）の点数とする。

7 点以上の場合 ： 50 点
4 点以上 7 点以下の場合 ：[（IELTS-1）×50/3]/2 点
3 点以上 4 点以下の場合 ：[（IELTS-3）×50]/2 点
3 点以下の場合 ： 0 点

（２）ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、韓国語

都市地域社会専攻都市地域社会コースの「地域社会系問題」を志望する者は、研究希望内容により、英語に代えてドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・韓国語を受験科目とすることができる。希望する場合には、事前に指導を希望する教員と連絡を取り、出願時に受験する外国語科目を選択すること。(出願時、利用言語を願書に記載すること。) ただし、母語を上記の外国語として受験することはできない。

① ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語を選択する場合、以下の CEFR 準拠検定試験のスコアを用いた選抜とし、筆記による試験は行わない。対象となる試験のスコア証明書（原本のみ、コピー不可）を出願時もしくは学科試験当日の学科試験Ⅰ開始前に試験監督者等の求めに応じて提出すること。証明書の受験日は学科試験当日から起算して５年以内のものであること。条件を満たしたスコアの提出がない場合、**失格とする。**提出されたスコア証明書は面接時に返却する。

・ドイツ語：Zertfikat Deutsch、Goethe-Zertifikat、TestDaf、TELC 等
・フランス語：DALF、DELF、TCF 等
・ロシア語：TRKI 等
・スペイン語：DELE あるいは西検等

② 中国語・韓国語を選択する場合、以下の対象となる試験のスコアを用いた選抜とし、筆記による試験は行わない。対象となる試験のスコア証明書（原本のみ、コピー不可）を出願時もしくは学科試験当日の学科試験Ⅰ開始前に試験監督者等の求めに応じて提出すること。証明書の受験日は学科試験当日から起算して２年以内のものであること。条件を満たしたスコアの提出がない場合、**失格とする。**提出されたスコア証明書は面接時に返却する。
・中国語：漢語水平考試（HSK）
・韓国語：TOPIKⅡ、「ハングル」能力検定試験

③ CEFR 準拠検定試験の換算方法は、下記の関係を基本として、各検定試験の該当レベルでのスコアを換算し外国語の点数とする。

Ａ１	:	10 点
Ａ２	:	40 点
Ｂ１	:	70 点
Ｂ２	:	90 点
Ｃ１，Ｃ２	:	100 点

④ 中国語検定試験（漢語水平考試 HSK）の換算方法
上記③のレベルにスコアを換算し外国語の点数とする。

１級	:	Ａ１
２級	:	Ａ２
３級	:	Ｂ１
４級	:	Ｂ２
５級・６級	:	Ｃ１,Ｃ２

⑤ 韓国語検定試験の換算方法
・「ハングル」能力検定試験
上記③のレベルにスコアを換算し外国語の点数とする。

４級	:	Ａ１
３級	:	Ａ２
準２級	:	Ｂ１
２級	:	Ｂ２
１級	:	Ｃ１

・TOPIKⅡ
以下の方法で換算し、外国語の点数とする。
（得点＋40）÷3 商の小数点以下は四捨五入
250 点以上は 100 点とする。
なお、TOPIKⅠは対象としない。

４．出願方法

（1）提出書類を揃え、書留郵便で送付すること。郵送のみでメールや窓口受付は行わない。

（2）出願期間は、以下のとおりとする。

建築都市文化コース、都市地域社会コース、国際基盤学コース（IGSI）志願者

2022年6月3日（金）から6月9日（木）**【期間内必着】**

ただし、**2022年6月8日（水）までの発信局消印のある書留速達に限り**、期間後に到着した場合でも受理する。

（3）あて先　〒240-8501 横浜市保土ケ谷区常盤台79-5

横浜国立大学　都市系支援課都市イノベーション学府係

（本学府所定のラベルを貼った市販の角形2号サイズの封筒を使用すること）

［注］海外在住の志願者は、日本国内に在住する代理人が出願書類を郵送すること。やむを得ず、日本国外から出願書類を送付する場合は、2022年6月9日（木）までに 到着するように、EMS（国際スピード郵便）等、引き受けや配達を記録できる方法で郵送すること**【期限内必着：日本国外から送付する場合は上記のただし書きに記されている日付の発信局消印があっても期間内に到着していない出願書類は無効です】**。返信用封筒を日本国外の宛先とする場合は、該当するEMS料金分の国際返信切手券を同封すること。

（4）受験票は7月上旬に志願者あてに速達郵便で発送する。

５．提出書類等

以下の書類を出願手続きの際に提出すること。出願書類に不備がある場合には、出願を受理しないので注意すること。出願に必要な本学府所定の様式は、都市イノベーション学府・研究院ウェブサイト「学生募集情報」ページからダウンロードして作成すること。様式の印刷は、全て「A4 サイズ・白色用紙」に「片面印刷」とする。書類を書き損じた場合は、誤った箇所に二重線を引き、余白に正しい内容を記載すること。

<table>
<tr><th>出願書類等</th><th>提出者</th><th>摘要</th><th>書式
番号</th></tr>
<tr><td>出願書類送付用ラベル</td><td>全員</td><td>都市イノベーション学府・研究院ウェブサイト「学生募集情報」ページからダウンロードし印刷して使用すること。
・市販の角形 2 号封筒に貼付のうえ、下記書類を入れて書留郵便で送付すること。</td><td>12</td></tr>
<tr><td>出願書類チェックリスト</td><td>全員</td><td>都市イノベーション学府・研究院ウェブサイト「学生募集情報」ページからダウンロードし印刷して使用すること。
・出願書類は、この用紙に記載されているとおりの順番に並べて、封入すること。</td><td>0</td></tr>
<tr><td>入学検定料</td><td>全員

ただし、日本政府（文部科学省）国費留学生は不要。
（出願の際、必ず国費外国人留学生証明書を同封すること。）</td><td>都市イノベーション学府・研究院ウェブサイト「学生募集情報」ページからダウンロードし印刷して使用すること。
(1)払込金額　30,000 円
（払込手数料は志願者本人負担）
(2)出願期間に間に合うように払い込むこと。
(3)次のいずれかの方法で払い込むこと。
［日本国内居住の日本人、外国人留学生志願者］
①コンビニエンスストアで支払う場合
・セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ、ファミリーマートにて可能。
・操作の手順は、巻末の案内書「入学検定料支払い方法のご案内」を参照すること。
［海外在住及び日本国内居住の外国人留学生志願者］
②クレジットカード（VISA・MasterCard・JCB・American Express・MUFG・DC・UFJ・NICOS）・中国銀聯ネット決済により払い込むことが可能。
［海外在住者］
③下記 URL より、教育機関向けの国際的な送金サービス「Flywire」を利用し、クレジットカードもしくは銀行振込により払うことが可能です。
https://www.flywire.com/pay/ynuni/
利用に際しては、Flywire のホームページを確認し、不明な点があればサポートデスクまでお問い合わせください。
Flywire ホームページ： https://www.flywire.com
Flywire サポートデスク：
https://www.flywire.com/support
詳細は本学ウェブサイトの「入試・入学」のページを確認すること。
https://www.ynu.ac.jp/exam/graduate/payment/index.html
(4)払込済みの「収納証明書」、「支払い完了通知のメール画面を印刷したもの」「レシートの写し（ファミリーマート）」を所定の貼付用紙（書式 11）の欄に貼り付けて出願書類に同封すること。</td><td>11</td></tr>
</table>

出願書類等	提出者	摘要	書式番号
入学願書	全員	**都市イノベーション学府・研究院ウェブサイト「学生募集情報」ページからダウンロードし印刷して使用すること。** ・出願前3か月以内に撮影した写真上半身無帽のもの（縦4㎝、横3㎝）を入学願書に貼付すること。 ・消えるタイプのボールペンは使用しないこと。	1-1又は2-1
受験票	全員	**都市イノベーション学府・研究院ウェブサイト「学生募集情報」ページからダウンロードし印刷して使用すること。** ・出願前3か月以内に撮影した写真上半身無帽のもの（縦4㎝、横3㎝）を受験票に貼付すること。 ・消えるタイプのボールペンは使用しないこと。	1-2又は2-2
返信用封筒ラベル	全員	**都市イノベーション学府・研究院ウェブサイト「学生募集情報」ページからダウンロードし印刷して使用すること。** ・用紙は本学交付のもの。住所、氏名、郵便番号を記入すること。 ＜受験票発送以外の本学からの連絡に用いる。＞	13
返信用封筒	全員	市販の長形3号の封筒に郵便番号、住所、氏名を記入の上、速達郵便料金の切手（354円分）を貼付すること。 ＜受験票および必要書類の発送に用いる。＞	
卒業(見込)証明書	全員	(1)出身大学（在籍大学）作成のもの。コピー不可。ただし、外国人留学生でやむを得ず卒業証明書の写をもって代える場合は必ず原本を出願前に都市イノベーション学府係の窓口に提示すること。 (2)外国の大学を卒業した場合は、学位証明書など取得学位が記載されているものを併せて提出すること。（卒業証明書で取得学位が確認できる場合は不要。）和文もしくは英文以外で作成された証明書については、和訳もしくは英訳を添付すること。証明書はコピー不可。 (3)出願資格(2)の出願者で、学士の学位を授与された者は、大学改革支援・学位授与機構が発行した学位授与証明書を提出し、学士の学位を授与される見込みの者は、在籍学校長が発行した学位授与申請予定証明書を提出すること。	
成績証明書	全員	(1)出身大学（在籍大学）の学長又は学部長により作成されたもの。コピー不可。 (2)外国の大学を卒業した場合で、和文もしくは英文以外で作成された証明書については、和訳もしくは英訳を添付すること。	
研究計画書	該当者	**都市イノベーション学府・研究院ウェブサイト「学生募集情報」ページからダウンロードし印刷して使用すること。** A4 判用紙1ページにまとめたもの。志望コース、指導を希望する教員名、氏名を記入すること。 ※「建築都市文化コース建築系問題」及び「建築都市デザインコース(Y-GSA)」の志願者は提出不要。	6
外国人留学生履歴書	外国人志願者 出願資格(1)の出願者は除く。	**都市イノベーション学府・研究院ウェブサイト「学生募集情報」ページからダウンロードし印刷して使用すること。** ・用紙は本学交付のもの。記入は日本語又は英語を用いること。	10

在留資格に関する証明書	外国人志願者	(1)現在日本国に在住している外国人の志願者は、在留カードの写し（両面）を提出すること。 (2)その他の外国人は、パスポートの写しを提出すること。	
出願資格認定書（写）	出願資格(5)の2、および(8)～(12)による志願者	本学学府長が証明した「出願資格認定書（写）」を同封すること。	

以下は出願書類に同封するか学科試験当日に持参し、試験監督者等の求めに応じて学科試験開始前に提出すること。

出願書類等	提出者	摘要	書式番号
外国語スコア証明書	該当者	詳細はp.3を参照すること。 外国語スコア証明書について、出願書類チェックリスト（書式0）に、出願書類に同封するか、学科試験当日に持参し学科試験開始前に提出するかの意向をチェックすること。	

以下は私費外国人留学生（一般入試志願者、私費外国人留学生特別入試志願者かは問わない）で1年次に授業料免除申請を希望する志願者については、出願書類に同封すること。

出願書類等	提出者	摘要	書式番号
横浜国立大学私費外国人留学生授業料免除申請書・経費支弁計画書	該当者	詳細p.11および本学ウェブサイトを参照すること。 書式についても本学ウェブサイトからダウンロードすること。 （https://www.ynu.ac.jp/campus/expense/foreign_exempt.html）	

６．試験期日、および場所

2022年8月22日（月）から8月23日（火）に実施する。筆記試験及び面接の場所等は、2022年7月27日（水）15時以降から試験当日までの間、大学院都市イノベーション学府掲示板に掲示する。

試験期日についての詳細は、p.12以降のコース説明を参照すること。

７．注意事項

（１）試験当日は必ず受験票を携帯すること。

（２）出願手続後の提出書類の内容変更は認めない。また、書類の返却はしない。

（３）本試験に関する変更等が生じた場合は、直ちに出願者に通知する。

（４）**各コースから課された入学試験科目（外国語試験、学科試験、面接等）の１科目でも受験しなかった場合（外国語試験については、TOEIC、TOEFL、IELTS、その他CEFR準拠検定試験または対象となる試験のスコアを出願時もしくは試験当日の学科試験Ⅰ・学科試験前に提出しなかった場合を含む）は、失格となる。**

（５）出願書類に虚偽の記載があった場合、入学後でも入学を取り消すことがある。

（６）志願者の入学試験成績及び出願書類等に記載された個人情報については、本学入学者選抜に係る用途の他、本人の申請に伴う入学料免除（留学生除く）等の福利厚生関係の資料及び本学における諸調査・研究にも利用することがある。調査・研究結果を発表する場合は個人が特定できないように処理し、それ以外の目的に個人情報が利用又は提供されることはない。

８．合格者発表

（１）筆記試験選抜の結果は、2022年9月7日（水）15時頃に本学府・研究院ウェブサイト（https://www.urban.ynu.ac.jp/）に合格者受験番号を掲載するとともに、9月7日(水)発送の郵便で合格者に通知する。
（２）募集人員に欠員が生じた場合は、追加合格により補充する場合がある。追加合格の通知は、入学願書に記載された現住所への電話連絡及び郵便により行う。追加合格に関する問い合わせには一切応じない。
（３）電話、FAX、メール等による合否についての照会には一切応じない。

９．入学手続き

（１）入学手続は以下の期間内に必要な手続きを行うこと。手続期間内に手続きを完了しない場合は入学辞退者とみなし、その後の手続きは認めない。
　2022年9月12日（月）～9月14日（水）**【期間内必着】**
　ただし、2022年9月13日（火）までの発信局消印のある書留速達に限り、期間後に到着した場合でも受理する。
（２）入学時に必要な経費〔日本政府（文部科学省）国費留学生に対しては徴収しない〕
　① **入学料：２８２，０００円**（現行）
　② **授業料：年額　５３５，８００円**（現行）
　入学料及び授業料は改定される場合がある。在学中に授業料の改定が行われた場合、改定時から新しい授業料が適用される。
（３）入学手続き後は、どのような事情があっても、入学料の返還は行わない。
（４）私費留学生受験者が在留資格「留学」を取得するに当たっては、留学生生活を維持できる経済的基盤を有している必要がある。
（５）官公庁又は会社等に在職している者は、入学手続きの際、その長又は代表者の就学承認書（様式は任意）を提出する必要があるためあらかじめ準備しておくこと。
（６）入学後の経済支援制度として、「入学料・授業料免除等制度」・「奨学金制度」等がある。詳細は学務・国際戦略部学生支援課ウェブサイトの奨学金・授業料/入学料免除のページを確認すること。（https://www.gakuseisupport.ynu.ac.jp/）
　特に私費外国人留学生で1年次に授業料免除申請を希望する志願者は、出願期間に申請を行う必要があるため、特に注意すること。制度の詳細は本学ウェブサイトを確認すること。
（https://www.ynu.ac.jp/campus/expense/foreign_exempt.html）
（７）学生寮への入居希望者は、入学手続き期間より前に申請手続きが必要となる場合があるため、各自において学務・国際戦略部学生支援課ウェブサイトの学生寮のページの入居募集案内を確認し、期間内に手続きを行うこと。
（https://www.gakuseisupport.ynu.ac.jp/）

10. コース説明

■建築都市文化専攻　建築都市文化コース（建築系問題）

１．学力検査内容

学科試験Ⅰについて志願者は出願時に志望する問題を選択すること。

外国語	100 点	英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜）
学科試験Ⅰ	300 点	建築系問題志望者に対しては、①建築史・建築芸術、②建築計画、③都市計画、④都市環境工学、⑤建築環境工学、⑥建築材料構法、⑦建築構造力学、⑧建築構造計画、⑨建築・都市防災計画、⑩特別小論文の 10 科目から志望先教員の専門分野に関する科目を含めて 6 科目を選択する筆記試験を行う。 ※「⑩特別小論文」については志望先教員によって選択できない場合がある。必ず志望先教員あるいは問い合わせ担当教員に確認すること。
学科試験Ⅱ	200 点	建築系問題志望者に対しては、建築史・建築芸術、建築計画、都市計画、都市環境管理計画、建築環境工学、建築材料構法、鋼構造学、鉄筋コンクリート構造学、地域創造の中から、志望先教員の専門分野に関する 1 科目（p. 19～20 参照）を選択する筆記試験と面接を行う。

２．検査科目及び日時

建築系問題志望者

期　日	科　目　名	時　　間
８月２２日（月）	外国語（英語）	
	学科試験Ⅰ	９時００分～１１時００分
	学科試験Ⅱ（筆記試験）	１２時３０分～１４時００分
８月２３日（火）	学科試験Ⅱ（面接）	１４時００分～

※本コースを志願する者は、願書提出前に必ず志望先教員あるいは問い合わせ担当教員と相談すること。

【注意事項】
- 受験者は試験開始２０分前に試験室に入ること。
- 学科試験Ⅰの開始前に、試験監督者等の求めに応じて TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア証明書を回収する（出願時または特別選抜当日に提出した者は除く）。提出されたスコア証明書は面接時に返却する。
- 学科試験Ⅰ、Ⅱ(筆記試験)では、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することが可能。
- 外国人留学生志願者は、語学の辞書を使用することができる。ただし、電子辞書は使用不可。
- 外国人留学生志願者以外は、語学の辞書・電子辞書は使用不可。
- 私費外国人留学生特別入試志願者は、学力検査科目の解答に英語を使うことを認める。

■都市地域社会専攻　都市地域社会コース（都市基盤系問題、地域社会系問題）

１．学力検査内容

学科試験Ⅰは「都市基盤系問題」と「地域社会系問題」がある。志願する者は、出願時に問題を選択すること。

都市基盤系問題

外国語	50 点	英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜）
学科試験Ⅰ	250 点	都市基盤系問題志望者は、数学１題に解答し、かつ専門科目 10 題（構造工学、水工学、地盤工学、土木計画学、コンクリート工学の 5 分野からそれぞれ 2 題ずつ出題）の中から合計 4 題を選び解答。
学科試験Ⅱ	200 点	研究計画書等にもとづいて、専門分野に関係する口述試験を行う。

地域社会系問題

外国語	100 点	英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜） ※ただし、「地域社会系問題」を志望する者については、希望する研究分野により、ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語・スペイン語から１ヶ国語を選択して試験を行うことができる。詳細は p. 5 を確認すること。
学科試験Ⅰ	200 点	地域社会系問題志望者は、人文社会科学分野からの複数の記述問題から１題を選び解答。
学科試験Ⅱ	200 点	研究計画書等にもとづいて、専門分野に関係する口述試験を行う。

２．検査科目及び日時

① 都市基盤系問題志願者

期　日	科　目　名	時　　間
８月２２日（月）	外国語（英語）	
	学科試験Ⅰ	９時００分～１１時００分
８月２３日（火）	学科試験Ⅱ（口述試験）	別途通知

② 地域社会系問題志願者

期　日	科　目　名	時　　間
８月２２日（月）	外国語（英語）	
	学科試験Ⅰ	９時００分～１１時００分
	学科試験Ⅱ（口述試験）	別途通知

※本コースを志願する者は、必ず願書提出前に志望先教員あるいは問い合わせ先担当教員と相談すること。p.21 以降の担当教員一覧のうち、（注）印の教員の指導を希望する場合は、必ず志望先教員本人への確認が必要である。（p.21～23 参照）

※都市基盤系問題志望者は、第２志望として国際基盤学コース（IGSI）を志願することができる。

【注意事項】

・受験者は試験開始２０分前に試験室に入ること。

・学科試験Ⅰの開始前に、試験監督者等の求めに応じて TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア証明書、ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語・スペイン語については CEFR 準拠のスコアのスコア証明書を回収する（出願時に提出した者は除く）。提出されたスコア証明書は面接時に返却する。

・学科試験Ⅰでは、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することが可能。

・受験者は、語学以外の学力検査科目に限り語学の辞書を使用することができる。ただし、電子辞書は使用不可。

・私費外国人留学生特別入試志願者は、学力検査科目の解答に英語を使うことを認める。

・都市基盤系問題志願者の学科試験Ⅱ（口述試験）は日本語で行う。

■都市地域社会専攻　国際基盤学コース　（ＩＧＳＩ）

１．学力検査内容

外国語	50 点	英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜）
学科試験Ⅰ	250 点	数学１題に解答し、かつ専門科目 10 題（構造工学、水工学、地盤工学、土木計画学、コンクリート工学の５分野からそれぞれ２題ずつ出題）の中から合計４題を選び解答。
学科試験Ⅱ	200 点	研究計画書等にもとづいて、専門分野に関係する口述試験を行う。

２．検査科目及び日時

筆記試験選抜

期　日	科　目　名	時　　間
８月２２日（月）	外国語（英語）	
	学科試験Ⅰ	９時００分～１１時００分
８月２３日（火）	学科試験Ⅱ（口述試験）	別途通知

※本コースでは、すべての講義とスタジオ教育、修士論文指導が英語で行われ、修士論文についても英語で作成する。

※本コースを志願する者は、必ず願書提出前に志望先教員あるいは問い合わせ先担当教員と相談すること。p.21 以降の担当教員一覧のうち、（注）印の教員の指導を希望する場合は、志望先教員本人への確認が必要である。（p.21～23 参照）

※本コースで出願する場合、第２志望として都市地域社会コース「都市基盤系問題」を志願することができる。

【注意事項】

・受験者は試験開始２０分前に試験室に入ること。

・学科試験Ⅰの開始前に、試験監督者等の求めに応じて TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア証明書を回収する（出願時に提出した者は除く）。提出されたスコア証明書は面接時に返却する。

・学科試験Ⅰでは、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することが可能。

・受験者は、語学の辞書を使用することができる。ただし、電子辞書は使用不可。

・私費外国人留学生特別入試志願者は、学力検査科目の解答に英語を使うことを認める。

11. 大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例による教育の実施について（社会人技術者又は研究者に対する大学院教育の特例）

大学院設置基準（文部科学省令）第 14 条では、「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定されており、社会人等の就学に配慮がなされている。同条に定める教育方法の特例を大学院での履修を希望する社会人技術者又は研究者に対し運用する。

【特例の内容】

(1) 修学年限（博士課程前期２年、博士課程後期３年）のうち１年間は、原則として、全日登学をすること。

(2) 特例による授業は平日の夜間（１７時５０分～１９時２０分）に開設するが、昼間の授業を含めた全時間帯の受講を許可する。

(3) 博士課程前期では学業に専念する１年間は主として修士研究に充てられるように修了に必要な授業の単位修得は夜間（１７時５０分～１９時２０分）の授業を利用して行うよう履修計画を立てること。したがって、学業に専念する期間における昼間の受講は夜間に開講されていない授業に限ることが望ましい。

(4) 入学に当たっては、指導教員の指導のもとに、博士課程前期は２年間、博士課程後期は３年間を見通した履修計画をたてること。

(5) 修学年限で修了するのが勤務の都合上無理な場合は、あらかじめ博士課程前期は３～４年間、博士課程後期は４～６年間にわたる履修計画をたてることも考慮すること（下記 12 参照）。

(6) 「特例」による履修計画の変更はその都度申し出て許可を得ること。

12. 長期履修学生について

長期履修学生とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士課程前期２年、博士課程後期３年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することが認められた者をいう。

長期履修学生に認定された者は、一般の学生とは異なり、修学年数に関係なく標準修業年限（博士課程前期２年、博士課程後期３年）分の授業料で修学することができる。

１．申請資格

長期履修学生として申請することができる者は、入学後も職業を有している社会人とする。

２．申請の手続き

長期履修学生の申請を希望する者は、次の手順に従い手続きを行うこと。<u>下記手続きのひとつでも怠ると審査の対象者とならないので注意すること。</u>

①出願前

<u>出願前に、指導を希望する教員又は問い合わせ先担当教員に長期履修学生の適用を希望する旨申し出ること。</u>

②出願時

入学願書の長期履修学生適用希望欄にチェックを入れること。

③入学手続時

長期履修学生を希望する者は、次の（1）、（2）の書類を入学手続き時に提出すること。

（1）長期履修学生申請書（別紙様式1：入学手続き書類送付時に送付予定（上記①②の手続きを行った者にのみ送付））

（2）在職証明書又は在職が確認できる書類

（3）提出期間は、下記のとおりとする。

2022年9月12日（月）～9月14日（水）（期間厳守）

入学手続き書類と同封のうえ、都市系支援課都市イノベーション学府係へ提出すること。

3．可否の認定

申請書類に基づき審査のうえ、認定の可否を決定し、入学後に通知する。

4．在学期間

長期履修学生の在学期間は、博士課程前期にあっては2年以上4年まで、博士課程後期にあっては3年以上6年までとなる。

なお、各年度の修了月は、原則3月、9月となっているので、長期履修学生申請書に修了予定年月を記入すること。

5．授業料の年額

長期履修学生の授業料年額は、授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を在学期間の年数で除した額となる。

注）在学中に授業料の改定が行われた場合には再計算された額となる。

（算出例）博士課程前期の長期履修学生申請者が在学期間3年と認定された場合

535,800円	×	2年	÷	3年		＝357,200円
（授業料の年額）		（標準修業年限）		（認定された在学期間）		（長期履修学生の授業料年額）

6．在学期間の短縮

長期履修学生は、認定された在学期間の短縮により修了することができる。

在学期間の短縮を希望する者は、当該学年を修了する2ヶ月前までに「長期履修学生在学期間短縮願」を提出し、承認を得なければならない。

＊詳細については必ず事前に窓口に相談すること。

7．在学期間の延長

長期履修学生で特別な事情がある場合は、在学期間の延長をすることができる。

在学期間の延長を希望する者は、在学期間が満了する2ヶ月前までに「長期履修学生在学期間延長願」を提出し、承認を得なければならない。ただし、在学期間の延長は1度限りのため注意すること。

在学期間は、博士課程前期4年、博士課程後期6年を超えることができない。

また、在学期間延長後の授業料は、標準修業年限（博士課程前期2年、博士課程後期3年）分の授業料からすでに納付済みの授業料を差し引いた分を延長期間で新たに算出し、納付することになる。

13. 身体に障がいのある入学者の事前相談について

心身の障がい等により、下表に該当する者（出願受付締切後の不慮の事故による負傷者等を含む）は、受験及び修学の上で配慮を必要とすることが起こり得るため、出願する前に必ず都市系支援課都市イノベーション学府係へ次の様式により事前に相談すること。なお、次表から判断できない場合については、問い合わせること。

区　分	身　体　障　害　の　程　度
視覚障がい	両眼の視力がおおむね 0.3 未満のもの又は視力以外の視機能障がいが高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴覚障がい	両耳の聴力レベルがおおむね 60 デシベル以上のもののうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢体不自由	1. 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2. 肢体不自由の状態が前号にかかげる程度に達しないもののうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病　弱	1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2. 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの
発達障がい	自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいのための配慮を必要とするもの

（様式）A4 判縦　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　年　　月　　日

横浜国立大学長　　殿

ふりがな
氏　　名
生年月日
住　　所 〒
電話番号

横浜国立大学に入学を志願したいので、下記のとおり事前に相談します。

記

1. 志望する学府・専攻・コース
2. 身体の障がいの種類、程度
3. 受験に際して配慮を希望する事項
4. 入学後の修学に際して配慮を希望する事項
5. そ　の　他

（添付書類）診断書（原本又は写）または身体障害者手帳（写）、その他参考資料

※申請は、上記様式例を参考に申請書を作成し、診断書（原本または写）または身体障害者手帳（写）、その他参考資料を添えて申請してください。申請内容によっては対応に時間を要する場合もあるので、出願する前のできるだけ早い時期に相談してください。

14. 安全保障輸出管理について

横浜国立大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「国立大学法人横浜国立大学安全保障輸出管理規則」を定めて、物品の輸出、技術の提供、人材の交流の観点から外国人留学生の受入れについては厳格な審査を実施しています。規制されている事項に該当する場合は、希望する研究活動に制限がかかる場合や、教育が受けられない場合がありますので、願書の提出の前に指導教員予定者と相談をするなど、出願にあたっては注意してください。なお、外国人留学生の方は、入学時に「外国為替及び外国貿易法」を遵守する誓約書に署名していただきます。詳細については研究推進機構ホームページを参照してください。

https://www.ripo.ynu.ac.jp/index/adscreening_jp/

15. 検定料の返還を請求する場合について

次の場合を除き、いかなる理由があっても出願書類を受理した後の払込済みの入学検定料の返還は行わない。

(1)　検定料の返還ができるもの

①入学検定料を払い込んだが横浜国立大学に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合

②入学検定料を誤って二重に払い込んだ場合

③新型コロナウイルス感染症感染拡大防止措置の影響により来学が不可能となった場合

(2) 検定料の返還請求の方法

以下①～⑤の項目を明記した入学検定料返還請求願（様式は問わない）を作成し、必ず、検定料支払・払込証明書（「郵便振替払込受付証明書」､「収納証明書」､「支払い完了通知のメール画面を印刷した物」）を添付して、速やかに郵送すること。

①返還請求の理由 ②氏名（ふりがな） ③現住所 ④連絡電話番号 ⑤試験の種類

(3) その他

①検定料の返還（払戻し）には相当の日数がかかる場合がある。

②出願が受理されなかった場合については、本学から別途返還に必要な書類を郵送する。

③新型コロナウイルス感染症感染拡大防止措置の影響により来学が不可能となった場合の検定料返還は試験開始までに申し出ること。

※返還額は、返還の際に要する手数料が差し引かれた額となる。

送付先：〒240-8501　横浜市保土ケ谷区常盤台 79 番 5 号
横浜国立大学　都市系支援課都市イノベーション学府係　宛

16. 事務問い合わせ先

出願資格や出願書類について不明な点がある場合は、下記まで問い合わせてください。

〒240-8501　横浜市保土ケ谷区常盤台 79 番 5 号
横浜国立大学　理工学系都市系支援課都市イノベーション学府係
電話　045(339)3826（ダイヤルイン）
メール　ses.daigakuin-urb@ynu.ac.jp

17. 担当教員一覧

研究内容については必ず願書提出前に志望先教員あるいは志望先コース問い合わせ先担当教員と相談すること。研究内容の詳細は本学研究者総覧（https://er-web.ynu.ac.jp）または都市イノベーション学府・研究院ウェブサイト「教員紹介」ページ等で確認すること。

■建築都市文化専攻

・建築都市文化コース

コース問い合わせ先担当教員

コース及び選択する問題	担当教員名	メールアドレス
建築都市文化コース 建築系問題	杉本　訓祥	sugimoto-kuniyoshi-wg@ynu.ac.jp

コース担当教員（建築系問題）担当教員 **●印の教員は募集を行わない。**

氏名	職位	専門分野に関する科目		研究内容のキーワード
		学科試験Ⅰ	学科試験Ⅱ	
●大野　敏★	教授	①建築史・建築芸術	建築史・建築芸術	日本建築史研究。特に厨子を主眼とした仏堂・社殿内部空間の研究。近世民家を中心とした住宅史研究。文化財建造物の保存に関する理論研究。伝統的建築技法の保存継承に関する研究。
●大原　一興(注)	教授	②建築計画	建築計画	建築計画、人間―環境系理論の研究。高齢社会・成熟社会における生活環境（住宅、福祉・文化・教育施設、都市・農村環境）の計画論。UD。環境老年学。エコミュージアム、ニューミュジオロジー。
●河端　昌也	教授	⑥建築材料構法	建築材料構法	膜構造，軽量構造，大空間構造，構造デザインに関する研究。構造工学，構造と形態，理論的・解析的検討，実験検証，設計・製作。
●高見澤　実★(注)	教授	③都市計画	都市計画	専門分野は都市計画、まちづくり、市街地整備、住環境マネジメント。それらの計画理論、事業手法、主体形成、制度システム等を研究。また、海外の都市計画システムや都市計画理論をひろく研究。
●田中　稲子	教授	⑤建築環境工学 ＊⑩選択可	建築環境工学	建築の温熱環境、パッシブデザイン、建築の省エネルギー化と住まい方、子どものための建築環境計画、住環境教育に関する研究。
●松本　由香	教授	⑦建築構造力学，⑧建築構造計画	鋼構造学	建築物の構造安全性、特に鉄骨構造物の耐震性能に関する研究。架構や構造部材の耐力及び変形性能の予測に関する研究。構造物の必要性能に関する多角的検討。地震被害の調査と分析。
●石田　孝徳	准教授	⑦建築構造力学，⑧建築構造計画	鋼構造学	鋼構造建物の耐震性能、鋼部材・接合部の変形性能の把握と予測法の構築、震災を受けた鋼構造建物の損傷評価法の高度化、震災後の機能維持に着目した鋼構造建物に関する研究。

氏名	職位	専門分野に関する科目		研究内容のキーワード
		学科試験Ⅰ	学科試験Ⅱ	
稲垣　景子	准教授	④都市環境工学, ⑨建築・都市防災計画 ＊⑩選択可	都市環境管理計画	都市・地域防災、建築・街区の災害時機能継続、安全に安心して暮らせる地域づくり、GIS を用いた都市空間解析。
●江口　亨	准教授	⑥建築材料構法	建築材料構法	建築構法、建築ストック活用。建築の生産性や住宅の構法史に関する研究。ストック型社会における建築関連産業や専門家のあり方に関する研究。
●杉本　訓祥	准教授	⑦建築構造力学, ⑧建築構造計画	鉄筋コンクリート構造学	鉄筋コンクリート構造物の耐震性能に関する研究、高層鉄筋コンクリート造建物の構法の研究、既存鉄筋コンクリート構造物の耐震補強技術の研究、地震災害における構造物の被害調査と分析。
●野原　卓★	准教授	③都市計画	都市計画	専門は、都市デザイン、景観、まちづくり。都市空間のデザイン及びマネジメント、資源・歴史・景観を活かしたまちづくりに関する研究及び実践的プロジェクト活動と調査分析。
●藤岡　泰寛★	准教授	②建築計画	建築計画	住居・住環境・コミュニティに関わる建築計画研究。持続可能な居住地計画、コハウジング、ライフスタイルの研究。建築・都市づくり・デザインやマネジメントに誰もが参画できる方法論の探求と実践。
●守田　正志	准教授	①建築史・建築芸術	建築史・建築芸術	西洋建築史・都市史、イスラーム建築史・都市史、地中海地域の建築史・都市史研究。特に、トルコを中心に、キリスト教・イスラームという宗教の枠を超えた建築・都市文化の継承に関する研究。
吉田　聡	准教授	④都市環境工学, ⑨建築・都市防災計画 ＊⑩選択可	都市環境管理計画	建築・地域の省エネルギー化、低炭素化、環境配慮の技術、計画・運用・管理手法およびその評価に関する研究。

・表中の教員の研究指導を志望する場合は、「建築系問題」で受験する必要がある。
・学科試験Ⅰは、表中の志望先教員の専門分野に関する科目を含めて 6 科目を選択すること。＊印の付く教員を志望する場合、学科試験Ⅰで「⑩特別小論文」を選択することができる。
・学科試験Ⅱは、表中の志望先教員の専門分野に関する科目（１科目）を選択すること。
・★印の教員の指導を希望する場合は、先進実践学環に出願できる。先進実践学環への出願については、必ず希望指導教員に事前に相談すること。
・(注)印の教員は、2023 年度末に退職予定。

■都市地域社会専攻

・都市地域社会コース

コース問い合わせ先担当教員

コース及び選択する問題	担当教員名	メールアドレス
都市地域社会コース 都市基盤系問題	比嘉　紘士	higa-hiroto-fk@ynu.ac.jp
都市地域社会コース 地域社会系問題	鎌原　勇太	kamahara-yuta-mg@ynu.ac.jp

コース担当教員

氏名	職位	研究内容のキーワード
大須賀　史和	教授	哲学・倫理学、ロシア思想史(社会・政治・文化)。主要なテーマは、東方正教の影響下に構想された宗教哲学における人間論、存在論、言語論で、日本や欧米の諸潮流との比較研究も行っている。
勝地　弘	教授	安全・安心・快適な社会の実現をテーマに、橋梁の空力振動問題、強風予測、強風災害リスクアナリシス、構造物の振動問題、構造設計論などの研究を行っている。
菊本　統	教授	地盤力学、地盤環境工学を専門としている。地盤の変形・破壊、流体の浸透、重金属の移流・分散・吸着など諸現象のモデル化とそれを応用した地盤解析技術の研究開発に取り組んでいる。
小宮　正安	教授	中央ヨーロッパの文化史、社会史・オーストリアのウィーンを足がかりとしながら、「一つのヨーロッパ」という考え方が歴史や文化に与えた影響に関する研究をおこなっている。
齊藤　麻人(注)	教授	グローバル化時代の都市政策。グローバル化、都市間競争、新自由主義的な政策の結果としての都市再生の矛盾や明暗を政治経済学的視点から研究している。
鈴木　崇之	教授	海岸工学、特に沿岸域における海岸侵食問題、砂浜の地形変化モデルの構築等の研究に従事。また、沿岸環境、沿岸防災等に関する研究も取り組んでいる。
田中　伸治	教授	専門は交通工学。交通運用、交通シミュレーション、ITS(高度交通システム)に関する研究に従事。既存の交通インフラを有効に活用する交通マネジメントに関する研究も行なっている。
長谷川　秀樹	教授	フランス社会学。現代フランス語圏文化社会研究。コルシカ島の地域研究。日本とフランスの文化・社会政策を比較し、まちづくりや生活と関連づけたツーリズムのあり方を考察する。
早野　公敏	教授	専門は地盤工学。なかでも交通地盤構造物、軟弱地盤改良、地盤防災、地盤材料をキーワードに、社会インフラを支える地盤基礎構造物の諸課題をテーマに研究している。
藤掛　洋子	教授	専門は、開発人類学、ジェンダーと開発、パラグアイ地域研究。国際協力、NGO 実践、社会企業、女性のエンパワーメントなどをキーワードに研究・実践活動を行っている。
細田　暁	教授	コンクリート工学、メインテナンス工学を専門としている。コンクリート構造物の高耐久化、維持管理の技術に関する研究と、それらを実構造物で達成するためのマネジメントの研究を行っている。
松本　尚之	教授	専門は文化人類学、アフリカ(ナイジェリア)及び日本をフィールドとし、国家政治と民族文化の関係や、都市移民の生活戦略に関する調査・研究を行っている。
松行　美帆子	教授	専門分野は都市計画・まちづくり。とくに開発途上国の都市・地域計画、都市問題、都市環境政策に関する研究、日本や欧州の環境共生型の都市計画に関する研究を行っている。

氏名	職位	研究内容のキーワード
安部　遼祐	准教授	専門分野は交通計画、交通政策、土木計画学。特に、都市鉄道・公共交通志向型開発や地域の交通・物流サービスなど、都市・地域の交通に関する分野を研究。
鎌原　勇太	准教授	国際関係論、内戦研究、民主主義理論、政治学方法論。国際社会の諸問題、特に内戦に関する量的研究を行うと同時に、政治現象を分析するための手法やデータセット構築にも関心がある。
崔　瑛	准教授	地盤工学を専門としている。なかでもトンネル、地盤防災、河川構造物をキーワードに、地盤構造物の設計・施工、および豪雨や地震による地盤災害などに関する諸課題について研究している。
田村　洋	准教授	橋梁を中心とした土木構造物の設計法、施工法、補修法の合理化に取り組んでいる。特に、鋼部材に発生する破壊現象の数理モデル化、耐震設計へのフィードバックのための研究に取り組んでいる。
辻　大和	准教授	専門は韓国の歴史・社会で、特に朝鮮王朝時代の国際関係を研究している。近現代における、朝鮮半島関係歴史資料コンテンツの開発も研究領域としている。
朴　祥美	准教授	専門は近現代日本と東アジア関係史。特に、戦前と戦後日本における演劇、舞踊などのパフォーマンスを媒介とした文化外交および文化振興、対植民地文化政策などについて研究。
比嘉　紘士	准教授	都市部に近い沿岸域や湖沼における生態系や物質循環のモデリングの研究を行っている。また、ドローンや人工衛星を使用した水環境リモートセンシング手法の開発も行っている。
平野　恵子	准教授	専門はジェンダー研究、国際社会学。特に家事労働、ケア労働などの再生産労働や移住家事労働者の組織化に関する研究を行っている。ギグ・エコノミーを含めた再生産労働の国際分業に関心がある。
藤山　知加子	准教授	RC 構造、PC 構造、鋼コンクリート複合構造を対象に、土木構造物の構造物の設計および性能評価手法の研究を行っている。特に、橋梁や風車に関わる諸課題について取り組んでいる。
三浦　倫平	准教授	専門は都市社会学、地域社会学。都市の再開発や災害復興、まちづくりなどの領域で起きる諸問題に着目し、「共生社会」はいかにして可能となるのか、その課題や条件について研究を行っている。

（注）印の教員の指導を希望する場合は、必ず希望指導教員または問い合わせ担当教員に事前に相談すること。・

国際基盤学コース（IGSI）

コース問い合わせ先担当教員

コース及び選択する問題	担当教員名	メールアドレス
国際基盤学コース（IGSI）	比嘉　紘士	higa-hiroto-fk@ynu.ac.jp

コース担当教員

氏名	職位	研究内容のキーワード
勝地　弘	教授	安全・安心・快適な社会の実現をテーマに、橋梁の空力振動問題、強風予測、強風災害リスクアナリシス、構造物の振動問題、構造設計論などの研究を行っている。
菊本　統	教授	地盤力学、地盤環境工学を専門としている。地盤の変形・破壊、流体の浸透、重金属の移流・分散・吸着など諸現象のモデル化とそれを応用した地盤解析技術の研究開発に取り組んでいる。
鈴木　崇之	教授	海岸工学、特に沿岸域における海岸侵食問題、砂浜の地形変化モデルの構築等の研究に従事。また、沿岸環境、沿岸防災等に関する研究も取り組んでいる。
田中　伸治	教授	専門は交通工学。交通運用、交通シミュレーション、ITS（高度交通システム）に関する研究に従事。既存の交通インフラを有効に活用する交通マネジメントに関する研究も行っている。
早野　公敏	教授	専門は地盤工学。なかでも交通地盤構造物、軟弱地盤改良、地盤防災、地盤材料をキーワードに、社会インフラを支える地盤基礎構造物の

		諸課題をテーマに研究している。
氏名	職位	研究内容のキーワード
細田　暁	教授	コンクリート工学、メインテナンス工学を専門としている。コンクリート構造物の高耐久化、維持管理の技術に関する研究と、それらを実構造物で達成するためのマネジメントの研究を行っている。
松行　美帆子	教授	専門分野は都市計画・まちづくり。とくに開発途上国の都市・地域計画、都市問題、都市環境政策に関する研究、日本や欧州の環境共生型の都市計画に関する研究を行っている。
安部　遼祐	准教授	専門分野は交通計画、交通政策、土木計画学。特に、都市鉄道・公共交通志向型開発や地域の交通・物流サービスなど、都市・地域の交通に関する分野を研究。
崔　瑛	准教授	地盤工学を専門としている。なかでもトンネル、地盤防災、河川構造物をキーワードに、地盤構造物の設計・施工、および豪雨や地震による地盤災害などに関する諸課題について研究している。
田村　洋	准教授	橋梁を中心とした土木構造物の設計法、施工法、補修法の合理化に取り組んでいる。特に、鋼部材に発生する破壊現象の数理モデル化、耐震設計へのフィードバックのための研究に取り組んでいる。
比嘉　紘士	准教授	都市部に近い沿岸域や湖沼における生態系や物質循環のモデリングの研究を行っている。また、ドローンや人工衛星を使用した水環境リモートセンシング手法の開発も行っている。
藤山　知加子	准教授	RC 構造、PC 構造、鋼コンクリート複合構造を対象に、土木構造物の構造物の設計および性能評価手法の研究を行っている。特に、橋梁や風車に関わる諸課題について取り組んでいる。

横浜国立大学大学院　入学検定料支払方法のご案内

横浜国立大学大学院の入学検定料をコンビニエンスストアにて払い込む場合は、下記のコンビニ端末を操作の上、レジにてお支払いください（出願期間１ヶ月前よりお支払いいただけます。）。

1 お申込み

セブン-イレブン　マルチコピー機

http://www.sej.co.jp

最寄りの「セブン-イレブン」にある「マルチコピー機」へ。

TOP画面の**「学び・教育」**よりお申込みください。

学び・教育
↓
入学検定料等支払
▼

LAWSON Loppi / MINISTOP Loppi

http://www.lawson.co.jp
http://www.ministop.co.jp

最寄りの「ローソン」「ミニストップ」にある「Loppi」へ。

TOP画面の**「各種サービスメニュー」**よりお申込みください。

「各種申込(学び)」を含むボタン
↓
学び・教育・各種検定試験
↓
大学・短大、専門、小・中・高校等お支払い
▼

FamilyMart Famiポート

http://www.family.co.jp

最寄りの「ファミリーマート」にある「Famiポート」へ。

TOP画面の**「申込・保険・請求・募金(7)」**よりお申込みください。

申込・保険・請求・募金(7)
↓
学び・教育
↓
各種(入学検定料等)お支払いサービス
▼

[横浜国立大学大学院] をタッチし、申込情報を入力して**「払込票／申込券」**を発券ください。

＊画面ボタンのデザインなどは予告なく変更となる場合があります。

2 お支払い

①コンビニの レジ でお支払いください。

端末より「払込票」(マルチコピー機)または「申込券」(Loppi、Famiポート)が出力されますので、**30分以内にレジにて**お支払いください。

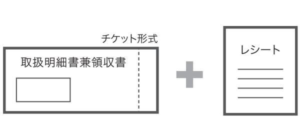
＊お支払い済みの入学検定料はコンビニでは返金できません。
＊お支払期限内に入学検定料のお支払いがない場合は、入力された情報はキャンセルとなります。
＊すべての支払方法に対して入学検定料の他に、払込手数料が別途かかります。

払込手数料	入学検定料(5万円未満)1件につき	税込 495円

(セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ)

②お支払い後 チケット と レシート の2種類をお受け取りください。

「取扱明細書」(マルチコピー機)または「取扱明細書兼領収書」(Loppi)。



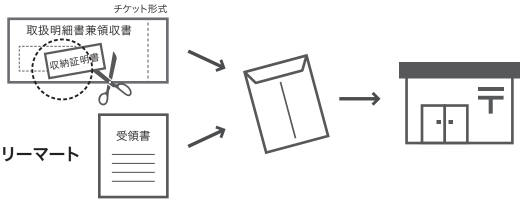
(ファミリーマート)

②お支払い後 レシート(受領書)をお受け取りください。

3 出願

「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の場合、「収納証明書」部分を切り取り、「レシート」の場合、レシートをコピーして本体を入試要項などの指示に従って郵送してください。

貼付する場合、「感熱・感圧紙などを変色させる場合があります」と記載のある糊は使用しないでください。「収納証明書」が黒く変色する恐れがあります。



【入試に関するお問合わせ先】横浜国立大学大学院　都市イノベーション学府係　TEL 045-339-3826

【操作などのお問合わせ先】学び・教育サポートセンター　https://e-apply.jp/　※コンビニ店頭ではお応えできません。

横浜国立大学大学院都市イノベーション学府
〒240-8501 横浜市保土ケ谷区常盤台 79 番 5 号
電話　045(339)3826（ダイヤルイン）
メール　ses.daigakuin-urb@ynu.ac.jp
理工学系都市系支援課都市イノベーション学府係